

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「話す・聞く」力を向上させるための授業改善を行った。
- ・「知識・技能」を効果的に活用する授業展開を行った。

(2) 課題

- ・基礎的な語彙力を向上させるための授業改善。
- ・「知識・技能」を効果的に活用する力を育むための授業展開。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	「我が国の言語文化に関する事項」以外は目標値を上回っている。		
第2学年	「文法語句に関する事項」「主体的に学習に取り組む態度」以外は目標値を上回っている。	「我が国の言語文化に関する事項」「インタビューの内容を聞き取る」以外は目標値を上回っている。（第1学年時）	
第3学年	「文法語句に関する事項」「文学的な文章の内容を読み取る」は目標値を上回っている。	概ね目標値を達成している。特に「我が国の言語文化に関する事項」のポイントが高い。（第2学年時）	文法・語句に関する事項は概ね目標値を上回っている。ことわざや文法事項が目標値に近い。（第1学年時）

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どの項目も目標値を上回っているが、「漢字を書く」項目に関しては、正答率が低く、課題がみられる。	目標値は上回っている。しかし、「文章を書く」項目においては、比較的苦手意識が高いため、改善の余地がある。	目標値は上回っている。意欲的に取り組む姿勢は持っているため、このまま継続していく。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どの項目も達成値を上回っている。ただし、「文法・語句に関する事項」に課題が見られる。	達成値を上回っているものの、「文章を書く」項目においてはまだまだ伸びしろがあると考えられる。	目標値を下回っているので語彙に関する力に課題があると考えられる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値は上回っているが、「漢字を書く」「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られる。	目標値を下回っている。特に「書くこと」の正答率が低く、改善の必要性がある。	目標値を下回っているので、記述式の問題への抵抗感があると考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校既習漢字の定着に加え、新出漢字の定着に向け、毎授業の冒頭で学習時間を作る。また、語句の意味調べを行い、語彙力の向上を目指す。	話すこと・書くこと的能力を向上させるため、自らの意見を考える時間を作り、それを文章化することを定着させると共に、意見交換やグループワークを充実させ、これらの力を伸ばしていく。	自身の学習を振り返る時間を、毎單元ごとに設けて、学びの積み重ねを実感させる。また、ノート作成やワークへの取り組みを正しく評価し、意欲を向上させていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校既習漢字の復習を継続し活用できるよう定着させる。様々な辞書を利用し文法・語句に関する知識・理解・能力を高め、読解に活用させる。	書くこと的能力を向上させるために自らの意見を持ったうえで意見交流や、記述活動を行っていく。読むこと的能力を向上させるために読んだ本のプレゼンテーションをさせたり、感想や意見を書かせたりする活動を充実させる。	定期的に学習を振り返らせたり、定期考査の自己反省を通じたりして『自らの学習を調整しようとする側面』を、学習目標の明確化とノートやワークシートの工夫を通じて、粘り強い取り組みを行おうとする側面を伸長させる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の小テストを実施し定着を図り、活用させることで定着を図る。情報の扱い方や読み取りは、異なったメディアの特徴を踏まえながら情報の取捨選択を意識させる。	「書くこと」の能力を向上させるために、相手・目的意識を持たせて活動に取り組ませる。また、小集団や全体の交流活動をとおり、個人の表現力を高めていく。	解決する意義を感じられる課題を設定し、より主体的に取り組めるようにする。また、ワークシートや作品の評価を早くフィードバックし、意欲の喚起を図る。